MEDLARS: 1974 年度索引作成方針の変更と 新規追加事項および JICST 研修会のことなど

後 藤 敬 治*

I. は じ め に

既に 1974 年度の Index Medicus 第 1 号が日本に到着している時点で、これまで筆者の都合で掲載を待っていた 74 年度の索引作成方針の変更等の紹介記事を本誌に掲載いただくことは時宜にかなったこととはいえなくなってしまう。

しかしやや出遅れた感があるにせよ今後も相当数の本年分 MEDLARS 生産物の発行と利用が行なわれることを考慮して、ここでは去る 1 月下旬 (昭和 49 年) に日本科学技術情報センター (JICST) で開催された第 2 回 MEDLARS 研修会中に見聞した事項中、一般の医学図書館員の方々にもお知らせしておいた方がよいと筆者が感じた事項の紹介と共に本年度の MEDLARS 索引作成方針の変更と新規追加事項の解説をさせていただくことにしたい。

記事作成のために用いた参考資料は 1973 年 10 月 5 日に NLM (米国国立医学図書館) で開かれた 1974 年度の索引作成のためのオリエンテーション用に作られた資料 (48 年 10 月 1 日受領)、その後各入力センターから NLM に寄せられた質問に基づいて作られた資料 (49 年 1 月 7 日受領)、および JICST 研修会配布資料である。

なお、お読みいただく際の便利さを考えて索引作成方針の本年度変更事項には●印を、新規追加事項には○印をそれぞれ各章の見出し語の前に付けておいた。

II. 収録対象論文

A. ●学会報告講演要旨 (Proceedings)

従来、索引作成者は学会報告講演要旨を含めて抄録の

みの記事は原則として索引作成の対象としないよう指示を与えられていた。(例外的に学会報告講演要旨で参考文献がつけられ、1 ページ程度の長さの要旨を索引対象とする指示を NLM 側から与えられたことはあったが、あくまでこれは例外的なことであった)

本年からこの講演要旨 (Technical Note (TN) No. 217 の記述に従えば societies, congresses, meetings, sessions, conferences, round tables 等の proceedings) に対する収録採否基準が定められ、その基準を満たす講演要旨 (議事録) は索引作成の対象とされることになった。

その選択基準を次に示す。(TN No. 217, October 1973)

- (1) Priority 1 指定雑誌掲載分についてはそのすべてを索引する。
- (2) Priority 2 指定雑誌掲載分については重要と考えられるもの (more substantive ones) のみを索引する。
- (3) Priority 3 指定雑誌掲載分については相当の長さがあり、上級の索引校閲者が収録対象とすることを承認したもののみを索引する。

日本の場合、Priority 1 指定雑誌 1 誌、2 指定雑誌は収録誌 96 タイトル中の約 1/3 であるから、全収録誌の 1/3 に掲載された講演要旨についてはそれがほぼ索引作成対象となるが、残りの 2/3 の Priority 3 指定雑誌掲載分の講演要旨については主としてその長さにより、索引されたりされなかったりすることになる。

その他講演要旨の索引作成時の注意事項として次の事項が Technical Note にあげられている。

- (1) 過去または将来、講演要旨として発表される以外に雑誌論文として発表されたか、される予定の

* Keiji Goto, 慶応義塾大学医学情報センター

講演要旨は索引作成の対象としてはならない。

- (2) 学会開催予告は対象としない。
- (3) 学会会長記念講演(推薦講演, 記念講演, 招待講演, 特別講演を含む)は索引対象に含め, 表題中にその語が入っている場合“presidential address”等の語を表題に加えねばならない。
- (4) 講演要旨として索引された論文はその表題の前に“Proceedings:”と語を補って入れて他の記事形式と区別せねばならない。

B. ○ 英文抄録

1973年までは英語以外の国語で書かれた論文にMEDLARS で定めた一定規準を満たした英文抄録が添付されていれば, それに対して ENGLISH ABSTRACT (Index Medicus では書誌事項記入位置の最後にある言語表示の前に (Eng. Abstr.) と表示されている) と作業用紙に記入していたが, 本年からはこの英文抄録ありの表示以外に抄録のものを MEDLARS のデータ・ベースに加える準備作業が NLM のスタッフによって進められている。

この作業の対象は MEDLINE (MEDLARS のデータ・ベースの一部をオンライン方式で利用するシステム) 収録対象誌 (Priority 1, 2 指定雑誌の大部分) の掲載論文中の英語論文に付された英文著者抄録である。

NLM 以外の入力センターで索引されていて上記対象となる抄録については, 現在のところこの作業は行なわれていない。

III. 主題索引作成

A. ● 索引深度——単一件名に用いる同一系列に属する複数副件名の使用制限

* (この章で用いる術語やその表記法等については 19 巻 2 号, p. 167~214 の拙稿と同様に行なったので必要ならそれを参照いただきたく思います)

MEDLARS では機械検索や索引作成作業等の作業用に副件名の階層化を行なったリストを作成し, 日常業務に用いている。

図 1 にそれを示すが, 図に見られるように各副件名が上位概念語から下位概念語へと印刷位置を下げて 3 段階の階層性をつけて主件名等の Tree Structures 同様の形式でリスト化されている。

1973 年度までの索引作成作業における副件名付与の原則は, 索引対象論文の内容の多面性により必要なだけ副件名を単一件名に付与することとされていた。

図 1 副件名ツリー構造

*anatomy & histology	*etiology
*blood supply	*chemically induced
*cytology	*familial & genetic
*embryology	*immunology
*abnormalities	*microbiology
*innervation	
*pathology	*diagnosis
*physiology	*enzymology
*growth & development	*immunology
*immunology	*microbiology
*metabolism	*radiography
*biosynthesis	
*blood	*analysis
*cerebrospinal fluid	*blood
*urine	*cerebrospinal fluid
*enzymology	*urine
*physiopathology	*enzymology
*secretion	*isolation & purification
*therapy	
*drug therapy	*pharmacodynamics
*nursing	*administration & dosage
*prevention & control	*adverse effects
*radiotherapy	*poisoning
*rehabilitation	*toxicity
*surgery	*therapeutic use

Technical Note No.216, (October 1973) 記載リストに NLM 索引作成部門 Mrs. Thelma Charen の許可を得て *immunology を *physiology の下位概念副件名として追加してある。

たとえば生化学関係の論文によく見られるコレステロールを主題とした論文で, 1 論文の中にその生合成, 血中の状態, 代謝, 分析と各方面からコレステロールを研究した論文があったとしよう。

この論文に従来の規則によって索引語を与えるとすると, CHOLESTEROL *biosynthesis, CHOLESTEROL *blood, CHOLESTEROL *metabolism, CHOLESTEROL *analysis とコレステロール研究のそれぞれの面を表現する索引語を副件名を用いて与えねばならない。

このような単一件名に複数副件名付与の従来の方針が本年から禁止され, 類似のカテゴリーに属すると思われる複数の副件名を単一件名に使用の際には図 1 にあげた副件名ツリー構造を参照し, その件名に与えねばならぬ副件名の中でツリー構造中最上位に位置する副件名 1 個を用いるよう, 単一件名に複数副件名付与の際の規則が変更された。

この規則に従って上記のコレステロール論文に索引語を与えるならば, CHOLESTEROL *metabolism のみでよいことになる。(索引語付与の単純化の原因としては MEDLARS 利用の主流方式が従来のバッチ処理からオンライン方式に移行しつつあることがあげられよう)

B. 化学物質

1. ● 一般事項

本年度の変更点としてまずあげねばならぬこととしては, 従来入出力作業に用いられていた化学物質, 薬物に関する Indexing Instructions 類に記されていた非

MeSH 語に対して用いるべき対応 MeSH 件名への使用指示が一切無効とされたことであろう。

この変更によって従来用いられて来た MEDLARS Classification of Steroids (1968), Pharmacy and Pharmacology (1971), Chemical Integrated Authority File 等は索引作成作業に利用出来なくなり, MeSH に記載されている化学物質, 薬物名(複数形の件名あり)以外の対象物質に対する索引語の付与はすべて NLM の化学物質索引作成担当者にゆだねるよう一般の索引作成者は義務づけられている。

この作業形態は新版の Chemical Integrated Authority File (これが唯一の化学物質, 薬物の索引作成典拠になるはずである) が完成されるまで続けられる予定である。

一般事項としてはこれ以外に MeSH 件名 1 語で索引対象を表現出来ない化学物質, 薬物に対してその索引語の特異性を増すために従来行なっていた SALTS; BRIDGED COMPOUNDS; ESTERS; KETONES といった類の語の組み合わせ使用が禁止され, 化学物質索引作成の原則通り対象物質の一般名, 作用名の 2 語で MeSH 件名による索引語を構成するよう定められたことをあげておきたい。

2. ● 同位体および放射性同位体

本年度の MeSH には従来の MeSH に全く見られなかった放射性同位体に関する 9 個の件名および関連件名 1 個が新たに MeSH 件名とされている。

これら新件名の MeSH への導入により放射性同位体を含む同位体の索引作成方針も改定されたので次にそれについてのべることにするが, それに先立って同位体に関する新 10 件名と, 索引対象文献中に現われる放射性同位体名をあげておく。

(大文字で記した語が MeSH 新主件名, 次行にやや記入位置を下げて放射性同位体の原子番号を記した)

CALCIUM RADIOISOTOPES (DI)

Ca-38, 39, 41, 45, 47~49

CARBON RADIOISOTOPES (DI)

C-10, 11, 14~16

CHROMIUM RADIOISOTOPES (DI)

Cr-46~49, 51, 55, 56

COBALT RADIOISOTOPES (DI)

Co-54~58, 60~64

IODINE RADIOISOTOPES (DI)

I-117~126, 128~139

IRON RADIOISOTOPES (DI)

医学図書館 20 巻 2 号 (73)

Fe-52, 53, 55, 59, 60, 61

PHOSPHORUS RADIOISOTOPES (DI)

P-28~30, 32, 33, 34

STRONTIUM RADIOISOTOPES (DI)

Sr-80~83, 85, 89~95

SULFUR RADIOISOTOPES (DI)

S-30, 31, 35, 37, 38

ISOTOPES (DI)

以下同位体に関する新索引作成方針についてのべる。

(1) トレーサーとして用いられる同位体の索引作成
ある元素または化合物の研究の際にそれに対応する同位体または対応同位体を含んだ化合物をトレーサーとして用いる場合の同位体に対する索引語としては, 元素名を IM 件名とし, 対応同位体名には *diagnostic use 等の副件名をつけず, 副件名なしで NIM 件名として同位体件名を用いる。

「放射性燐を用いた筋 DNA 中への燐の取込みに関する研究」

に対する索引語としては,

MUSCLES *metabolism (IM)

DNA *metabolism (IM)

PHOSPHORUS *metabolism (IN)

PHOSPHORUS RADIOISOTOPES (NIM)

を用いる。

(2) MeSH 件名とされていない放射性同位体名の索引作成

特定の放射性同位体名が MeSH 件名とされていない場合は, 対応同位体複合件名 (CERIUM ISOTOPES; CESIUM ISOTOPES 等) と RADIOISOTOPES を組み合わせる索引語とする。

「乳汁中の放射性セシウムの分析」

に対する索引語としては,

CESIUM ISOTOPES *analysis (IM)

RADIOISOTOPES *analysis (IM)

MILK *analysis (IM)

を用いる。

(3) 複合同位体件名が MeSH に存在しない場合の同位体の索引作成

対応元素件名 (IM) に ISOTOPES (NIM) を組み合わせる索引語とする。

「鉛同位体」

に対しては,

LEAD (IM)

ISOTOPES (NIM)

とする。

(4) IM 件名として ISOTOPES を用いる場合
同位体全般に関する記述のある論文に対してのみこの
件名を索引語として用いる。

たとえば,

「薬物代謝研究に用いる安定同位体」

に対して,

DRUGS *metabolism (IM)

ISOTOPES (IM)

の如く ISOTOPES を索引語とすることが出来る。

(5) 内部用 MeSH 注記の参照

同位体件名に対する副件名の使用にはいくつかの制限
が与えられているので、各同位体件名に対する副件名使
用上の注記をその使用にあたって参照する必要がある。

(6) 天然放射性元素に対する索引語

当然のことであるが、表1にあげてあるような元素そ
のものが放射性元素である元素件名を索引語として用い
る際にはこれら件名に加えて RADIOSOTOPES を併
せ用いる必要はない。

表1 天然放射性元素 MeSH 件名

ACTINIUM (D1)	POLONIUM (D1)
AMERICIUM (D1)	PROMETHIUM (D1)
ASTATINE (D1)	PROTACTINIUM (D1)
BERKELIUM (D1)	RADIUM (D1)
CALFURNIUM (D1)	RADON (D1)
CURIUM (D1)	TECHNETIUM (D1)
DEUTERIUM (D1)	THORIUM (D1)
FRANCIUM (D1)	TRITIUM (D1)
NEPTINIUM (D1)	URANIUM (D1)
PLUTONIUM (D1)	

(7) 組み合わせ索引作成法による索引語に対する副
件名の付与

単一索引対象に与えられた件名であるから、双方の件
名に同一の副件名を用いねばならない。

「放射性カリウムによる治療法」

に対しては,

POTASSIUM ISOTOPES *therapeutic
use (IM)

RADIOISOTOPES *therapeutic use (IM)

としなければならない。

(4月23日, 1974年度のIndexing Manualの改定版
としてNLM索引作成部門のMrs. Peri Schuylerの作
成された同位体とその対応MeSH件名のリストを受領
したので, 同位体関連文献の検索作業の際の参考にMe

SH注記と共に利用いただくと便利かと思い, 編集者に
その掲載をお願いし, 御好意によりこの記事の終りの部
分に付表1として入れていただきましたので御利用下さ
い。)

C. ● 地理件名の適用範囲の拡大

従来, 索引作成者はMeSH件名で(Z)のカテゴリ
ーを与えられている地理件名(機械検索専用の件名で
Index Medicusの主題索引の見出し語には用いられな
い)を歴史, 伝記, 疫学, 諸団体, 文化, 社会現象, 民
族学, 寄生体と宿主等に関する索引作成の際に用いるよ
う指示されていた。

本年から従来このように用いられて来た地理件名をよ
り自由に, 索引作成者が地理件名を用いる必要性を認め
るすべての索引対象に与えるよう, 指示が変更された。

たとえば, 細菌, ウイルス, その他の微生物の株(系)
の産地, 植物ごとに各種アルカロイドを含む植物産地,
血液型の分布やヘモグロビンの型分布, 皮紋, 生物の多
形性, 集団遺伝学の対象などはすべて地理件名付与の対
象となる。

一般にある特定国で発表された同国内での問題を扱っ
た記事においては, 特に他の国の同種の問題との比較が
記事内で行なわれていない限り, 特にその国名は自明の
こととして記事や表題中で明確な記述がされていないこ
とが多い。

たとえば日本の雑誌に発表された医療保健費について
の記事は, 特に表題や記事中で日本の医療保健費とこと
わってなくても, 著者も読者も医療保健費=日本の医療
保健費と暗黙の了解をしているのが普通であろう。

しかし世界各国で入出力作業の行なわれているMED-
LARSにおいてこのような一種の腹芸は通用しないの
で, 索引語としてFEES AND CHARGESとJAPAN
を日本の医療保健費に対して与えることになる。

D. 照合事項

1. ● ANIMAL

従来ANIMAL EXPERIMENTSとして用いられて
来た照合事項が本年からANIMALと変更された。

既に1972年の半ばに索引作成者は照合対象をそれま
での動物個体を用いた動物実験——実験動物の範囲は
B1 無脊椎動物全般とB2 脊椎動物全般——に限定せず,
動物実験であるなしにかかわらず索引対象論文中に動物
が部分(血液, 臓器等)であれ全体であれ関与している
場合はすべてANIMAL EXPERIMENTSにチェック
するよう指示されていた。

本年の ANIMAL EXPERIMENTALS から ANIMAL への単なる名称の変更は、作業の実質的な内容に則して名称が変更されたことになる。したがって機械検索時にこの語を検索語として用いれば、すべての動物に関する(ヒトと動物とが同一論文中で扱われているものを含めて)文献の検索が可能となる。

極く僅かの例外として、動物由来の実験材料——馬血球、蛇毒等——に対しては各々の動物名に対する索引語は与えられてもこの項へのチェックは行なわれないことをあげておきたい。

2. ● CASE REPORT

従来ヒトのみが対象とされていたが、本年から獣医動物もその対象とするよう変更された。

これらヒト、動物の症例に対して CASE REPORT にチェックが行なわれた際、HUMAN; ANIMAL; FEMALE 等への各照合事項にも必要に応じてチェックが行なわれる。

3. ● COMPARATIVE STUDY

1965 年から 1973 年までの間、この照合事項の対象は二種以上の薬物、化学物質、二種以上の治療、診断、分析法の比較に限定して用いられて来た。

1974 年からこの限定が解かれ、すべての索引対象中の二種以上の比較に対してこの事項を用いることが許されるようになった。

したがって従来用いることの出来なかった単一のトランキライザー投与による各種の精神障害に対するその効果の比較に対しても、特定条件下の二つの異なった器官

の代謝の比較にも、いくつかの地方の健康調査結果の比較にも、化学者と医師のパーソナリティの比較にも、この照合事項を用いることが可能となった。

従来 NIM 件名として用いることを許されていた主件名の ANATOMY, COMPARATIVE; HISTOLOGY, COMPARATIVE; PHYSIOLOGY, COMPARATIVE; PSYCHOLOGY, COMPARATIVE の 4 件名はこの COMPARATIVE STUDY の新しい適用範囲の指定により、本年からは従来専門主題を表わす IM 件名に組み合わせてその比較を表わすのに NIM 件名として用いるのを許されて来た用法が禁止された。

E. 新版典拠図書と tool

1. ウィルス

従来用いられていた 1967 年版にかわって 1972 年版 (Andrewes, Christopher & Pereira, H. G.: Viruses of vertebrates. 3d. ed. London, Bailliere Tindall, 1972, 451 p.) が 1974 年の索引作成に用いられている。

表 2 に新版になって追加・変更された索引事項を旧版の索引と比較し、それに対応して用いられるべき MeSH 件名を示す。(TN No. 212, October 1973)

2. 真菌類

1961 年版にかわって 1971 年版 (Ainsworth, Geoffrey Clough; Ainsworth and Bisby's dictionary of the fungi by G. C. Ainsworth, including the lichens by P. W. James and D. L. Hawksworth, 6th ed. Kew, England, Commonwealth Mycological Institute, 1971 663 p.) が 1974 年の索引作成に用いられている。

表 2 ウィルス分類典拠図書 追加・変更事項
(Andrewes' viruses of vertebrates. 3d. ed.)

(3 版索引)	(2 版索引)	(対応 MeSH 件名)
Alphavirus	なし	ARBOVIRUS
Arenavirus	なし	LYMPHOCYTIC CHORIOMENINGITIS VIRUS; RNA VIRUSES+EPIDEMIC HEMORRHAGIC FEVER *microbiology; LASSA VIRUS (Prov)
Flavivirus	なし	ARBOVIRUS
Iridoviruses	なし	DNA VIRUSES
Leukoviruses	Avian leukosis-sarcoma complex Leukemogenic & other rodent RNA viruses	AVIAN LEUKOSIS-SARCOMA VIRUSES LEUKEMOGENIC VIRUSES; MOUSE TUMOR VIRUSES
Orthomyxoviruses	Myxoviruses	INFLUENZA VIRUSES
Parvovirus	なし	PARVOVIRUSES
Rhabdovirus	なし	RNA VIRUSES
Togaviridae	なし	ARBOVIRUS
	* Arenavirus = Arenovirus	

(Technical Note No. 216, October 1973 の一部に NLM 索引作成部門 Mrs. Thelma Charen の許可を得て *physiology の下に *immunology が追加してある)

表 3 真菌類分類典拠図書 追加・変更事項
(Ainsworth's dictionary of the fungi. 6th ed.)

(6 版索引)	(5 版索引)	(対応 MeSH 件名)
Ascomycotina	Ascomycetes	ASCOMYCETES
Basidiomycotina	Basidiomycetes	BASIDIOMYCETES
Deuteromycotina	Fungi Imperfecti	DEUTEROMYCETES
Mastigomycotina	Phycomycetes	PHYCOMYCETES
Myxomycota	Myxomycotina	FUNGI
Zygomycotina	Phycomycetes	PHYCOMYCETES

表 3 にウイルス同様にその変更点と前版との比較および対応 MeSH 件名を示す。(TN No. 211, October 19, 73)

3. 酵素

1965 年版にかわって 1973 年版 (International Union of Pure and Applied Chemistry and the International Union of Biochemistry: Enzyme nomenclature. Amsterdam, Elsevier Scientific Publishing Co. 1973. 443 p.) が 1974 年の索引作成に用いられている。

この変更点等については前記ウイルス、真菌類と異なり変更点が多くここに表としてあげられないので、73 年版の命名典拠図書および NIM 索引作成部門で作成された “Key to the indexing of enzymes” およびその前部に付された使用説明を参照していただきたい。(“Key to the indexing of enzymes” を含む Indexing of enzymes は MEDLARS Management Section, Room 152, NLM へ返送用の宛名ラベルを添えて寄贈申込みをすれば無料で送付いただけるとのことである。)

4. 新版 MEDLARS Indexing Integrated Authority File

おそらく今年前半には従来発行されていた各種索引作成資料中の内容を統合した文字通りの統合索引作成用典拠ファイル (I. A. F.) が発行される見込みである。

このファイルは約 12,000 語の一般用語篇と約 8,000 語の化学篇に分けられ、まず一般用語篇から発行される予定である。

NLM 索引作成部門の入出力用 tool 類に対する将来計画によると、MEDLARS の入出力に関する疑問をこの新版 I. A. F. と内部用 MeSH の注記と MeSH 相互参照によって氷解可能にすることにあるようである。

これが発行されれば、従来各種 tool を用いて行なわ

ねばならなかった作業が大変簡便化され、能率的に行なえることになる。

* (5 月 13 日, I. A. F. 第 2 版として (一般用語篇) の部分が NLM から日本に送付されて来た。これについての紹介も前述の同位体同様に編集者の御好意によりこの記事の最終部分に III-E-4-Suppl として加えさせていただいたので参照いただきたく思います。)

IV. 書誌的事項

A. ●ページ付け—Non-standard pagination

従来 Non-standard pagination として扱っていたページ付けに用いた記号 P* は不要となり、通常のページ付け同様の表示方法が Non-standard pagination にも行なわれるようになった。したがって従来 P*1~6 passim と表記していたページ付けは 1~6, 9~10 等と、以下同様に P*I~Ⅲ は I~Ⅲ と、P*i~iii は i~iii と表記されることになる。

B. 収録論文の記事形式の表題中への表示

1974 年から収録論文の記事形式として Editorial (論説), Letter (短報), Proceedings (学会報告講演要旨), Clinical conference (臨床検討会) の 4 形式の表示が各表題の前にコロンを入れて行なわれることになった。

Index Medicus での表記を例にとると、

Letter: Papanicolaou smeare. Schapera R.
S Afr Med J 47: 1728, 29 Sep 73

と表記されることになる。

MEDLARS では上記 4 形式以外は表題中に記事形式の表示は行なわないが、索引語の使用により英文抄録 (ENGLISH ABSTRACT) と総説 (REVIEW) に対しての記事区分を行なっている。他の記事区分 (symposium, technical report 等) については索引語の使用によ

っても行っていない。

1. ○ Editorial (論説)

収録に際して特記すべきことはない。採否の基準は従来同様に対象論文の記事内容が医学に関係している、Index Medicus 等に収録の価値があるか否かの入力担当者の判断をその基準としている。

2. ○ Letter (短報 : 速報)

Letter, Letters, Letter to the editor, Letter from our readers, Correspondence 等と編集者によって区分される記事がそれであり、採否の基準は Editorial 同様の基準がこれにも適用される。

3. ○ Proceedings (学会報告講演要旨)

これについては既に II. A で解説したのでここでは説明を省略する。

4. ○ Clinical conference (臨床検討会)

CPC, Clinico-pathological conference, 臨床病理検討会などと呼ばれる記事がこの対象となる。その他同種の記事として Clinicopathological case reports, Medical staff conference, Medical rounds, Surgical rounds などと呼ばれている記事もこれに含める。

Clinical conference の記事に対する著者名記入については、表題の近くにその記入が行なわれている場合は他の記事形式の著者名記入の規則に従って行なうが、それ以外の場所(記事の終りの部分等)に記載された著者名は no author として処理される。

Clinical conference は解剖学または病理学的診断検討会記事に対して用いられる語であり、臨床診断や臨床検討会記事には用いない。

C. ○ 翻訳表題——著者による翻訳英文表題の表示

ここでいう翻訳英文表題とは英語以外の言語で書かれている論文に付された翻訳英文表題を翻訳英文表題と呼ぶことにするが、本年から著者自身による上記表題に対しては表題の終りの部分に (author's transl) の表示を入れ、第三者による翻訳英文表題と区別が行なわれることになった。

索引作成者が著者翻訳英文表題と認める条件としては英語以外で書かれた原表題記載頁中(その大部分は原表題の直上か直下に付されているが)に翻訳英文表題が置かれていることが必要である。

著者翻訳英文表題と認めた表題については、索引作成者は明白な印刷ミスの訂正および MEDLARS 方式による語頭の大文字化以外の加工は行なわない。

著者翻訳以外の翻訳英文表題(目次、論文の終りの部

分や本文とは離れた位置に印刷された英文抄録添付の翻訳英文表題)については Index Medicus の形式(文頭の不要語の除去等: Study of diabetic states→Diabetic states と訂正)に訂正が行なわれる。

V. 1974 年版 MeSH

A. 語数

1. 主件名 (main headings)

8,983 (1974 年度 追加数 479 削除数 15)

2. 臨時の件名 (provisional headings) 487

3. 相互参照 (cross-references)

see 参照 1,784

see under 参照 1,921

see also related 参照 1,395

see also specific 参照 85

合計 5,185(および同数の逆参照)

新主件名 479 の内訳は次の通りである。

前年の provisional heading から 286

前年の NON-MeSH term から 7

新規主件名 186

また、この 479 新主件名中の 271 が化学物質、薬物関係語であり、この中の 141 は前年の provisional heading から、130 が 1974 年に初めて MeSH 件名となった化学物質、薬物関係語である。

B. 注記

1973 年に初めて内部用 MeSH に付けられた MeSH 件名の注記事項の目的は、MEDLARS 入出力作業の統一性を保つことにあり、この注記は各種索引作成作業用 tool から取られた注記約 7,500 からなり、その対象となる MeSH 構成要素は主件名、相互参照用語、臨時の件名、地理件名である。

以下新しく本年度 MeSH 注記に加えられた事項をあげておこう。

(1) 本年度の臨時の件名約 400 に付けられている使用概念規定リストにある個々の件名に対する指定 IM 件名は注記として MeSH に記載されたが、例外として化学物質に関する IM 指定件名で 3 件名以上の指定がある場合は記入スペースの関係で注記が付されていない。

(3) 2 個以上の相互参照用語を片角括弧で結び、同一参照語が被参照語である MeSH 件名では複数の意で用いられていることに対する注意を、初級索引

作成者や検索者に換起する目的で行なわれるようになった。

次の例では非 MeSH 件名である EXCEPTIONAL CHILD という語が MeSH では GIFTED CHILD と MENTAL RETARDATION の二つの意味をもつ語として扱われていることを示す。

CHILD, EXCEPTIONAL see under

CHILD, GIFTED (F1, M)

CHILD, EXCEPTIONAL see under

MENTAL RETARDATION (C10, F2)

(3) 1973 年に追加された Technical Notes 中の注記が本年の MeSH 注記に加えられた。

C. 刊行頻度

1972 年までは内部用アルファベット・リストは季刊であったが、1973 年以降この年 4 回の刊行頻度が年 1 回に変更されている。

D. MEDLARS II における MeSH

MEDLARS II については JICST の川野惟二氏が「情報管理」16 巻 12 号に詳しい紹介記事を發表される予定であるから、その詳細を知りたい方はそれを参照いただきたく思うが、ここでは MEDLARS II における MeSH について簡単な紹介をしておきたい。

MEDLARS II で用いられるであろう MeSH の最大の特徴は、現在 MEDLARS I で用いられている標準化された一定数の用語による入出力作業で行なわれているようにシステム関係者が利用上重要と考える用語を標準化された MeSH 件名に変換してシステムを利用する必要をなくし、脳中に浮んだ用語そのものを用いてシステムの利用を可能にせんとする目的に一步近づいた MeSH の設計が行なわれている点にある。

これは従来米国で行なわれていた検索専門家 (MEDLARS searcher) によるバッチ処理方式の MEDLARS 利用から、現在米国で利用の主流となっている一般利用

者(面倒な入出力上の約束ごとを覚えたがらないものであろう)の直接利用方式であるオン・ライン方式への転換に MeSH の構造を適合させるためにも必要な変更であらう。

その全貌については未だ MEDLARS II が稼動していない現在充分な説明は不可能であるが、前述のオリエンテーションの資料によりその特徴を紹介しておく。

(1) MeSH 用語の増加に対するコンピュータの収容能力の拡大化。

(2) 利用者自身の用語によるシステム利用の可能性を意図した設計。

(3) (2) の目的のために、現在の主件名を major descriptor, see under 用参照語、臨時の件名を minor descriptor と名称を変更し、major descriptor を Index Medicus 主題索引用見出し語に、機械検索用には major descriptor と minor descriptor の双方を用いる。

(4) 現在の MeSH 中の同義語参照 (see 参照) はそのまま残され、major 又は minor descriptor 同様に用いられ entry term と呼ばれる。重要度の少ない同義語は entry term としてではなく、Integrated Authority File 中にリストされる。

(5) 現在4段階の階層化がほどこされている MeSH 件名が、新 MeSH では7段階により深く階層化される。

*5月17日に JICST の川野惟二氏からいただいた連絡によると、JICST に先日この7段階の階層性を持った MeSH のサンプルが到着したそうである。これについてはいずれ現物入手の段階で紹介を行ないたい。

VI. 入手可能な検索用資料と文献情報サービスにおけるその必要性

筆者は日常業務として直接文献情報サービス業務を担当

* 印の付された資料はそれぞれ2ドル45セントでマイクロフィッシュ化されたものが購入出来るが、日本国内で現物形態に復元する費用を考えると、初めから印刷物の形態で購入した方が経済的なように思われる。

表 4 現在入手可能なMEDLARS検索用 tool 類

MeSH	(NTIS注文番号)	(日本での購入価格)
1) *Alphabetic List, 1974	pB-221-326	11ドル50セント
2) *Permuted MeSH, 1974	pB-221-463	11ドル50セント
3) *Tree Structures, 1974	pB-221-327	8ドル50セント
4) *Cumulated List of New Medical Subject Headings 1963-1973	*pB-219-054	5ドル50セント
2. MeSH関連資料	このみマイクロフィッシュ形態は	3ドル45セント
1) New Main Headings and Provisionals with Scope Notes-1974	pB-226-906/AS	5ドル75セント
2) 同 1973	pB-212-065	3ドル
3. その他		
1) *MEDLARS Indexing Manual	pB-207-181	8ドル50セント
2) *MEDLARS Indexing and Searching aids (1. Hints for Index Medicus Users, 2. Eponymous Syndromes, 3. Tumor Manualを含む)	pB-212-064	5ドル50セント
3) *MEDLARS Training program MEDLINE Training Syllabus:	pB-207-177	5ドル50セント
4) 索引作成に関する資料(1. 1974 MEDLARS Indexing Manual addenda, 2. 1974 Technical Notes addenda, 3. 1974 Indexed Citation Form, 4. 1974 List of Tools and Referencesを含む) ∴. NLM索引作成部門(Index Section, Bibliographic Services Division)へ返送用宛名を記入した接着剤付ラベルを同封の上、寄贈申込みをすれば残部のある限り無料で送付いただけることである。		
5) Indexing of Enzymes ∴. NLM内のMEDLARS Management Section, Room 152-3の4)同様に返送用宛名ラベルを同封して申込み、無料で送付いただけることである。		

NTIS (National Technical Information Service)

U. S. Department of Commerce, 5285 Port Royal Road, Springfield, Virginia 22151 U.S.A.

*印の付された資料はそれぞれ2ドル45セントで、マイクロフィッシュ化されたものが購入出来るが、日本国内で現物形態に複元する費用を考えると、初めから印刷物の形態で購入した方が経済的なように思われる。

当してはいないが、間接的なその担当者との接触を通じて MEDLARS 産物、ことに Index Medicus の利用に對しても、従来から Index Medicus と共に配布されている一般用 MeSH の使用のみでの検索ではその十分な成果が上げられないのではないかという感じをよく抱されることがある。

そこでこれまで断片的に紹介を行なって来た入出力 tool 中で現在入手可能な、かつ日常の MEDLARS 産物を用いた情報サービス業務に有効と考えられる tool のリストを表 4 として紹介させていただくことにする。

表 4 の 1 の 1) にあげた MeSH Alphabetic List は前述の一般用 MeSH とは異なる内部用の注記付リストであり、この中には機械検索専用の臨時の件名、地理件名、NON-MeSH term も記入されているし、1 の 4) にあげた Cumulated List of New Medical Subject Headings 1963~1973 は図 2 に記入例を示したように、その配列は、(1) MeSH 記載年代順の新件名アルファベット順総合リストと新件名記載以前に用いられていた件名の(副件名の組み合わせ使用を含む)対応リスト、(2) (1) 同様の構成であるが、新件名を記載年代ごとにまとめたリスト、および(3) (1) の配列を左右逆

にした新件名の出現以前の索引語を見出し語とした新件名との対応リストの三種から構成されている。

このリストと現行の 1974 年版 MeSH を利用することにより、従来各年度の(1960 年から 1962 年までの 3 年間は MeSH の改定が行なわれなかったもので 1960 年版 MeSH のみの参照でよいが) MeSH を用いながら行なって来た 1960 年から今日の最新 Index Medicus までの遡及検索作業が大変簡単に行なえるようになった。

たとえば図 2 (p. 162) に見られる ALPHABETIC LISTING の LIVER ABSCESS, AMEBIC を参照することにより、1963 年に新件名としてこの語が MeSH に記載されるまで(1960 年から 1962 年の間)はアメーバー性肝膿瘍は LIVER ABSCESS と AMEBIASIS の 2 件名で索引されていたことが理解出来るし、逆に BACKWARD LISTING で LIVER ABSCESS を参照することにより、1969 年度からは LIVER ABSCESS, AMEBIC という新件名が LIVER ABSCESS 以外に関連索引語として用いられ初めたことを知ることが出来る。

BACKWARD LISTING の欠点としてあげておきたいことに、リスト中の件名の使用期間の表示がないこと

図2 Cumulated List of Mesh 1963-1973の記入例

ALPHABETIC LISTING

<i>Subject Heading with Year of Entry</i>	<i>Major Heading under which Concept Formerly Appeared</i>
1973 LIPOSUMES	MEMBRANES, ARTIFICIAL
1963 LIVER ABSCESS, AMEBIC	AMEBIASIS
1963 LIVER ABSCESS, AMEBIC	LIVER ABSCESS
1964 LIVER CIRCULATION	LIVER
1963 LIVER CIRRHOSIS, EXPERIMENTAL	LIVER CIRRHOSIS *experimental
1963 LIVER CIRRHOSIS, OBSTRUCTIVE	LIVER CIRRHOSIS
1963 LIVER CIRRHOSIS, POSTNECROTIC	LIVER CIRRHOSIS
1964 LIVER CYTOLOGY	LIVER
1963 LIVER DISEASES, PARASITIC	LIVER *parasitology
1963 LIVER DISEASES, PARASITIC	LIVER DISEASES
1963 LIVER DISEASES, PARASITIC	PARASITIC DISEASES
1964 LIVER ENZYMOLOGY	LIVER
1964 LIVER FUNCTION	LIVER
1963 LIVER GLYCOGEN	GLYCOGEN
1963 LIVER GLYCOGEN	LIVER *chemistry
1964 LIVER REGENERATION	LIVER
1968 LIZARDS	REPTILES
1972 LOBSTERS	CRUSTACEA

YEARLY LISTING

<i>Subject Heading with Year of Entry</i>	<i>Major Heading under which Concept Formerly Appeared</i>
1963 LIPODYSTROPHY, INTESTINAL	SPURIE
1963 LIPODYSTROPHY, INTESTINAL	INTESTINES *diseases
1963 LIPODYSTROPHY, INTESTINAL	LIPIDOSIS
1963 LIVER ABSCESS, AMEBIC	AMEBIASIS
1963 LIVER ABSCESS, AMEBIC	LIVER ABSCESS
1963 LIVER CIRRHOSIS, EXPERIMENTAL	LIVER CIRRHOSIS
1963 LIVER CIRRHOSIS, OBSTRUCTIVE	LIVER CIRRHOSIS
1963 LIVER CIRRHOSIS, POSTNECROTIC	LIVER CIRRHOSIS
1963 LIVER DISEASES, PARASITIC	LIVER *parasitology
1963 LIVER DISEASES, PARASITIC	LIVER DISEASES
1963 LIVER DISEASES, PARASITIC	PARASITIC DISEASES
1963 LIVER GLYCOGEN	GLYCOGEN
1963 LIVER GLYCOGEN	LIVER *chemistry
1963 LUMBAR VERTEBRAE	SPINE

BACKWARD LISTING

<i>Major Heading under which Concept Formerly Appeared</i>	<i>Subject Heading with Year of Action</i>
1963 LISTERIA INFECTIONS	MININGITIS, LISTERIA
1964 LIVER	LIVER CIRCULATION
1964 LIVER	LIVER CYTOLOGY
1964 LIVER	LIVER ENZYMOLOGY
1964 LIVER	LIVER FUNCTION
1964 LIVER	LIVER REGENERATION
1964 LIVER	MICROSOMES, LIVER
1963 LIVER	PORTAL SYSTEM
1963 LIVER	LIVER GLYCOGEN
1963 LIVER	LIVER DISEASES, PARASITIC
1963 LIVER	HEPATECTOMY
1963 LIVER	HEPATITIS, TOXIC
1963 LIVER ABSCESS	LIVER ABSCESS, AMEBIC
1963 LIVER CIRRHOSIS	LIVER CIRRHOSIS, OBSTRUCTIVE
1963 LIVER CIRRHOSIS	LIVER CIRRHOSIS, POSTNECROTIC
1963 LIVER CIRRHOSIS *experimental	LIVER CIRRHOSIS, EXPERIMENTAL
1963 LIVER DISEASES	FATTY LIVER
1963 LIVER DISEASES	HEPATIC VEIN THROMBOSIS
1963 LIVER DISEASES	LIVER DISEASES, PARASITIC
1966 LIVER DISEASES	HEPATOMEGALY
1968 LUCIFERIN	LUCIFERASE
1963 LUMBAR PLEXUS	LUMBOSACRAL PLEXUS

をあげたい。件名の使用期間の表示がされていないために LIVER ABSCESS が LIVER ABSCESS, AMEBIC に変更されたのか、細分化されて新しく LIVER ABSCESS, AMEBIC が追加されたのかを全く利用者は知ることが出来ないし、同様に図2に見られる LUMBAR PLEXUS が LUMBOSACRAL PLEXUS に置き換えられたのか、追加されたのかを知ることもこのリストからは出来ない。勿論現行の MeSH によりこれらの件名の記載の有無を確認すれば上記の疑問は氷解するが、このリストを見ているだけでは LIVER ABSCESS が現行の件名であり、LUMBAR PLEXUS が1963年に削除され、その代りに LUMBOSACRAL PLEXUS が MeSH 件名として用いられて来ていることは解らない。

またこのリスト全体の問題としては、リストの収録語が主件名 (main headings) のみで機械検索性件名 (Provisional headings, geographic headings, check tags) が入れられていないことであろう。

表5に参考のために MEDLARS Management Section が行った検索性 tool についての調査結果をあげておく。

調査期間は1973年2月7日から3月9日まで、調査対象機関は米国 MEDLINE センターの33%にあたる機関である。

調査結果中で MeSH および MeSH 関連 tool, Indexing Manual に各センターが高い評価を与えているのが注目される。

VII. JICST MEDLARS 研修会

昨年に続いて本年も JICST で MEDLARS 研修会が開催された。昨年の研修会については既に本誌でも紹介されているので御存知の方も多いと思うが、第1回目の昨年の研修会は期間が6日間(48. 3. 26~3. 31)、参加機関4(九大、阪大、東大、慶大)、およびオブザーバー数機関、研修内容は MEDLARS 機械検索性のための索引作成法の概要と機械検索性法の解説と演習についてであった。

第2回目の研修会は本年1月28日から30日までの3日間、昨年同様 JICST で行なわれ、研修内容は昨年同様、参加機関は昨年より多く十数機関が北海道、東北、新潟、東京、名古屋、京都、大阪、広島の各地から参加

表5 NTIS発注のMEDLINE toolに関する調査結果 (Library Network/MEDLARS Technical Bulletin-May 1973, P. 12より)

発注後資料受領までの平均時間: 40日				
平均発注点数: 4				
発注/受領比: 89.4%				
Toolの有益性	印刷物の質:	Excellent	30.3%	
		Good	53.5%	
		Poor	4.7%	
		Unspecified	11.4%	
	MAJOR VALUE %	CONSIDERABLE VALUE %	MINOR VALUE %	UNSPECIFIED %
MEDLARS Training Program: MEDLINE Training Syllabus	38.4	23.1	7.7	30.8
MEDLARS Indexing Manual	23.5	47.1	5.9	23.5
Permuted MeSH, 1972	46.6	26.7	0.0	26.7
MEDLARS Indexing and Searching Aids	22.2	5.6	0.0	72.2
Medical Subject Headings New Main Headings and Provisionals 1973	55.8	27.9	9.3	7.0
Medical Subject Headings Tree Structures 1973	80.7	5.3	0.0	14.0
Medical Subject Headings Alphabetic List 1973	80.4	8.9	0.0	10.7
MEDLARS Training Program: MEDLINE Reference Manual	51.5	20.0	17.1	11.4

されていた。

筆者はたまたまこの二回の研修会に参加させていただいた者の一人であったが、この研修会を通じて索引作成者と MEDLARS の利用者である検索者との間にシステムに対する理解のギャップがあるのを感じて研修会から帰って来たことはまだ記憶に新しい。

その主なものをあげると、まず入力上の規則——索引作成法——の一層の理解が検索者に必要だと思われたこと、検索作業における各種 tool 類の理解と使用の必要性、わかりきった事かも知れないが機械検索とマニュアル検索における両者の利害得失の検討、などである。

元来いかなる情報検索システムでもそれは利用を最終目的として設計、運営が行なわれているはずであるが、システムに高度の要求を盛り込むとその要求のために複雑なプロセスがシステム運営上必要となり、利用者にとってはそのシステムはあまり用い易いシステムではなくなってくる現象が発生することになるのではなからうか。

MEDLARS の索引作成においても同様の現象が見られるように思われ、殊に本年の研修会においては IM 件名と NIM 件名付与の入力上の条件について機械検索、マニュアル検索の双方の利用者によく知っておいていただくことが望ましいように感ぜられた。

この件に関してはいずれ項をあらためて“機械検索とマニュアル検索における IM 件名と NIM 件名の検索上の特質”とでも題して発表させていただきたいと思うが、ここでは問題提起の意味で研修会席上 JICST 西川正洋氏の提出された MEDLARS テープから実際に検索された文献と付与索引語をあげ、IM 件名のみを用いて検索を行なうと検索困難な Index Medicus での文献調査が NIM 件名をも検索語として用いられる機械検索では簡単に行なえることを付与索引語の面から示しておきたい。

文献名 : Metal contamination in the environment.

(Eng) Kazantzis G

Practitioner 210 : 482~9, Apr 73

付与 IM 件名

METALS

OCCUPATIONAL DISEASES

付与 NIM 件名

CADMIUM

CADMIUM *poisoning

ENVIRONMENTAL POLLUTION

LEAD

LEAD POISONING

MERCURY

MERCURY POISONING

この例からも理解出来るように、現在の索引作成作業においては実際に Index Medicus の主題索引用見出し語として索引対象文献に与えられるべき ENVIRONMENTAL POLLUTION がシステム内部の事情（この場合はこれが臨時の件名であるから）で NIM 件名とされ、代りに OCCUPATIONAL DISEASES が IM 件名として用いられ、これが非機械検索時のこの適合文献検索のための障害となっている。

この文献を索引作成上の規則の理解と各種 tool を用いずに、一般用 MeSH のみを用いて METALS と OCCUPATIONAL DISEASES が Index Medicus 用索引語とされていることを知ることは——METALS が索引語とされている推定は比較的容易であろうが——大変困難なことであろう。

その他研修会で提起された問題として広く医学図書館員の方々に報告しておきたいことに、MEDLARS 収録雑誌の日本での完全充足と収録文献の短時日での複写サービスシステムの確立についての要望があったことをあげておきたい。

収録雑誌の完全収集計画については既に本誌 16 巻 3 号に天野の報告があるように、JICST の依頼を受けて従来日本の医学図書館で収集されていなかった MEDLARS 収録誌を大阪大学医学図書館（ヨーロッパ各国）、東京大学医学図書館（ソ連、東欧、アジア、アフリカ各国）、慶応義塾大学医学図書館（南北アメリカ、スペイン、ポルトガル）でそれぞれ収録雑誌の発行担当地域分担をし、収集に努めているが、この現状調査を医学図書館協会あたりで行ない、一般に結果を知らせていただくと色々好都合ではなからうか。

その際の調査項目として要望したいことに、収録誌の発行国別充足率、受け入れ不能誌名の発表とその理由、今後の収集対策および海外所蔵機関への複写サービス依頼のルートと所要日数、費用、日本国内収録誌所蔵機関での複写サービス態勢（所要日数、費用）などをあげておきたい。

VIII. お わ り に

編集委員会からのお勧めで出来れば毎号 MEDLARS について短かくとも何か書くようにとのことで、今回は 1974 年度の索引作成方針の変更と新規追加事項とおよび

JICST 研修会についてのべたが、今回は上述の IM 件名と NIM 件名について検索面からの紹介を行なってみたいと考えています。(昭和 49 年 3 月 8 日)

Ⅲ-E-4-suppl. Integrated Authority File 第 2 版 (一般用語篇), 1974

a. 作成の目的

Integrated Authority File 第 2 版 (一般用語篇) (以下これを単に IAF と呼ぶ) の序文によれば, IAF は次にあげる諸目的のために作成されている。

1. 日常の索引作成作業において作られた非 MeSH 語に対して用いるべき指定索引語 (指定対応 MeSH 件名) の各用例の収集。
2. これら各例の入出力作業における利用とそれがもたらす用語利用上の一様性の獲得。
3. 索引作成者が日常用いている各種 tool——これらのうちのあるものは検索利用者の目に触れないものもある——に記載された非 MeSH 語対応指定索引語群の統合。
4. 入出力作業における MeSH に記載のない用語に対応する指定索引語の確認のための tool
5. 今後の MeSH 改善のための新しい非 MeSH 語に関するデータの収集。

新しい IAF の完成により MEDLARS で用いられる用語数は従来の約 15,000 語 (主件名約 9,000, 臨時の件名約 500, 相互参照語約 5,000) に加えて約 10,000 語 (IAF 見出し語から他との重複を除いた推定値) が新たに加わったことになる。なお近日中に Chemical IAF も出版用原稿が完成し、発行が行なわれるとのことである。これが完成の暁には我々が長年望んでいた MEDLARS 利用のための用語に関する一つの体系が一応の完成をみることになる。

b. 出典

これまで筆者が本誌 19 巻 1, 2 号, および本号に紹介して来た各種 tool が現在の IAF の出典である。これらはいずれも IAF にその内容が収録される時点での update 化が図られている。したがって今後 MEDLARS 関係者は MeSH とその補助 tool として IAF のみを用いれば、特別に語の定義などを参照する場合を除いて、MEDLARS における索引作成, 検索利用の目的を達することが可能となった。

以下、各出典名とその IAF 記載上の省略形をあげておく。

1. (FUN) Ainsworth & Bisby's Dictionary of the Fungi (6th ed., 1971)
2. (VIR) Andrewes & Pereira's Viruses of Vertebrates (3d ed., 1972)
3. (CEL) CELL LINES
4. (DEN) DENTISTRY
5. (SYN) EPONYMOUS SYNDROMES
6. (GEN) GENETICS
7. (IMM) IMMUNOLOGY
8. (IAF) INTEGRATED AUTHORITY FILE
9. (MSH) MEDICAL SUBJECT HEADINGS
MeSH 関連出版物中から MeSH 件名の同義語, 削除件名などが収録されている。
MeSH の相互参照語は IAF の目的である MeSH 補助 tool の機能から考えても理解出来るようにほとんどここには収録されていない。少数の入出力用のパラメータ追加が必要な語のみがここに収録されている。
10. (PAR) PARASITOLOGY
11. (NEU) PARKINSONISM THESAURUS
シソーラス用語中の一部と Strong & Elwyn の Human Neuroanatomy (4 版 1959) 中の用語の一部が追加されている。
12. (PHA) PHARMACY AND PHARMACOLOGY
13. (RES) RESPIRATION PHYSIOLOGY
14. (Tn) TECHNICAL NOTES
15. (TUM) TUMOR MANUAL
同一語が倒置形, 非倒置形のいずれからでも検索可能なよう数カ所に配列されている。
16. (VET) VETERINARY MEDICINE

c. 特徴

既に筆者も本誌 19 巻 2 号に各種 tool 類の統合化の必要性を指摘しておいたが、今回各種 tool 類から指定索引語群の指示を IAF に集め統合したことにより、MEDLARS 関係者にその用語使用上の一様性が期待出来、それがもたらす検索精度, 作業効率上昇などの利益は大きなものになると予想される。

また今回の IAF は電子計算機を用いて作成されているので、今後その内容の追加, 削除, 訂正等の変更は従来手作業のみにより作成されていた tool 類より容易に行なえるし、用語の統計的把握も簡単に行なうことが可

能であろう。これにより入出力関係者が日常業務中に遭遇する新医学情報等を MeSH 件名に取り入れるルート (Indexer Query Forms などへの記載→NLM 索引部門での検討→IAF 収録→MeSH 件名) が確立し、今後の MeSH の改良と発展に大きな利益をもたらすことになる。

d. 記入形式

次に示す例により記入形式の解説を行なってみよう。

hematomole (TUM)	
*hematoma, tuberosus subchorional	* = 被相互参照用語への指示記号
X DECIDUA	X = Index Medicus 件名として用いるべき MeSH 件名への指示記号
X HEMATOMA	
N OVUM	N = Non-Index Medicus 件名として用いるべき指示記号
P SYNDROME	P = 臨時の件名として用いるべき指示記号

(1) 見出し語

上の例では hematomole (TUM) がこれに相当し、この語が非 MeSH 件名として IAF の見出し語として採用され、出典は Tumor Manual である意味の表示が行なわれている。

IAF の見出し語は正常な語順 (myelin sheath internodes), 倒置形 (arteritis, senile), またはその双方の記入形式が単一語に対して採用されている。

見出し語以外の語は語頭の印刷位置を下げ、見出し語に対する同義語の参照と指定索引語の指示が行なわれている。

(2) 同義語参照

上の例では hematomole に対して同義語である tuberosus subchorional hematoma は参照が hematoma, tuberosus subchorional see hematomole という形式で hematoma, ... の IAF での見出し語の位置に付されていることを表わしている。

(3) 指定索引語の指示

入出力に際して用いられるべき件名が上にあげた指定記号を付されて表示されている。

“hematomole” に対しては DECIDUA と HEMATOMA を Index Medicus 用件名に OVUM を機械検索専用の件名に、SYNDROME も同様に機械検索件名 (臨時の件名は Non-Index Medicus 件名と同様の扱いを検索時には受ける) に用いるよう表示が行なわれている。

副件名の表記は組み合わせられて用いられるべき大文字で印刷された件名の後に、小文字でスラッシュをはさんで ENCEPHALOMYELITIS/microbiology のように表記される。

指定件名の後に付された “if applic” は、適当ならばこの件名も用いてよいとの意味の表示である。したがって入出力作業上この指示のある件名は必ず用いられるべき性質の件名ではないのに注意する必要がある。

終りに付図 1 として IAF の印刷例の実際をあげておく。

e. 入手方法

NLM 索引作成部門への TELEX での問い合わせの結果、現在のところ新版 IAF は索引作成者用に少数数印刷され、関係機関に配布されているのみで、一般利用者への配布は考慮されていないとの回答を得た。

いずれ NTIS を通じて一般への流通も考慮されることと思うが、現状では残念ながら慶応大学医学情報センター又は国際医学情報センターにあるコピーの利用以外に実物を参照いただくことは不可能である。

(昭和 49 年 5 月 20 日受付)

追記：例によって筆者の校正不十分からいくつかの訂正、追加を 19 巻 2 号の記事にさせていただきます。

ページ	上から↓	下から↑	誤	正
206	別表 3	Familial & Genetic	家族性と遺伝性	家族性と遺伝性
209	追加：別図 2-2 ㊤	SUBJECT TERMS の ADMINISTRATION, ORAL の下に “INJECTIONS, INTRAPERITONEAL”	を追加。	
210	追加：別図 2-3 ㊤	SUBJECT TERMS の NEISSERIA GONORRHOEA の下に “PROTEUS VULGARIS *drug effects”	を追加。	
	同欄の LINCOMYCIN	については Clindamycin が 72 年 1 月 1 日から臨時の件名に、74 年 1 月 1 日には主件名とされたので、厳密にはそれぞれの時点以後の索引作成では LINCOMYCIN に代わって CLINDAMYCIN が用いられるべきである。		

付表 1 同位体と対応 MeSH 件名

(元素名)	(同位体質量数)	(対応 MeSH 件名)
Actinium (Ac)	221-231	ACTINIUM
Aluminum (Al)	27 23-26, 28-30	ALUMINUM ALUMINUM + RADIOISOTOPES
Americium (Am)	237-246	AMERICIUM
Antimony (Sb)	121 123 112-120, 122, 124-127, 129, 132-135	ANTIMONY ANTIMONY + ISOTOPES ANTIMONY + RADIOISOTOPES
Argon (A)	40 36, 38 35, 37, 39, 41, 42	ARGON ARGON + ISOTOPES ARGON + RADIOISOTOPES
Arsenic (As)	75 69-74, 76-81, 85	ARSENIC ARSENIC + RADIOISOTOPES
Astatine (At)	198, 201-219	ASTATINE
Barium (Ba)	138 130, 132, 134-137 126-129, 131, 133, 139-145	BARIUM BARIUM + ISOTOPES BARIUM + RADIOISOTOPES
Berkelium (Bk)	243-250	BERKELIUM
Beryllium (Be)	9 6-8, 10, 11	BERYLLIUM BERYLLIUM + RADIOISOTOPES
Bismuth (Bi)	209 196-208, 210-215	BISMUTH BISMUTH + RADIOISOTOPES
Boron (B)	11 10 8, 9, 12, 13	BORON BORON + ISOTOPES BORON + RADIOISOTOPES
Bromine (Br)	79 81 74-78, 80, 82-85, 87-90	BROMINE BROMINE + ISOTOPES BROMINE + RADIOISOTOPES
Cadmium (Cd)	114 106, 108, 110-113, 116 103-105, 107, 109, 115, 117-121	CADMIUM CADMIUM + ISOTOPES CADMIUM + RADIOISOTOPES
Calcium (Ca)	40 42, 43, 44, 46 38, 39, 41, 45, 47-49	CALCIUM CALCIUM ISOTOPES CALCIUM RADIOISOTOPES
Californium (Cf)	244-254	CALIFORNIUM
Carbon (C)	12 13 10, 11, 14-16	CARBON CARBON ISOTOPES CARBON RADIOISOTOPES
Cerium (Ce)	140 136, 138 131-135, 137-139, 141-148	CERIUM CERIUM ISOTOPES CERIUM ISOTOPES + RADIOISOTOPES
Cesium (Cs)	133 123, 125-132, 134-145	CESIUM CESIUM ISOTOPES + RADIOISOTOPES
Chlorine (Cl)	35 37 32-34, 36, 38-40	CHLORINE CHLORINE ISOTOPES + RADIOISOTOPES
Chromium (Cr)	52 50, 53, 54 46-49, 51, 55, 56	CHLORINE CHLORINE + ISOTOPES CHLORINE + RADIOISOTOPES
Cobalt (Co)	59	CHROMIUM CHROMIUM ISOTOPES CHROMIUM RADIOISOTOPES COBALT

Cobalt (Co)	54-58, 60-64	COBALT RADIOISOTOPES
Copper (Cu)	63 65 58-62, 64, 66-68	COPPER COPPER + ISOTOPES COPPER + RADIOISOTOPES
Curium (Cm)	238-250	CURIUM
Dysprosium (Dy)	164 156, 158, 160-163 149-155, 157-159, 165-167	DYSPROSIUM DYSPROSIUM + ISOTOPES DYSPROSIUM + RADIOISOTOPES
Einsteinium (Es)	246-250, 252-256	EINSTEINIUM
Erbium (Er)	166 162, 164, 167, 168, 170 158, 160, 161, 163-165, 169, 171, 172	ERBIUM ERBIUM + ISOTOPES ERBIUM + RADIOISOTOPES
Europium (Eu)	153 151 144-150, 152, 154-160	EUROPIUM EUROPIUM + ISOTOPES EUROPIUM + RADIOISOTOPES
Fermium (Fm)	248-256	FERMIUM
Fluorine (F)	19 16-18, 20, 21	FLUORINE FLUORINE + RADIOISOTOPES
Francium (Fr)	212, 217-224	FRANCIUM
Gadolinium (Gd)	158 154-157, 160 145-153, 159, 161, 162	GADOLINIUM GADOLINIUM + ISOTOPES GADOLINIUM + RADIOISOTOPES
Gallium (Ga)	69 71 64-68, 70, 72-76	GALLIUM GALLIUM + ISOTOPES GALLIUM + RADIOISOTOPES
Germanium (Ge)	74 70, 72, 73, 76 65-69, 71, 75, 77, 78	GERMANIUM GERMANIUM + ISOTOPES GERMANIUM + RADIOISOTOPES
Gold (Au)	197 186, 188-196, 198-203	GOLD GOLD ISOTOPES + RADIOISOTOPES
Hafnium (Hf)	180 176-179 168-175, 181, 182, 183	HAFNIUM HAFNIUM + ISOTOPES HAFNIUM + RADIOISOTOPES
Helium (He)	4 3 5, 6, 7	HELIUM HELIUM + ISOTOPES HELIUM + RADIOISOTOPES
Holmium (Ho)	165 151-153, 155, 156, 158-164, 166-170	HOLMIUM HOLMIUM + RADIOISOTOPES
Hydrogen (H)	1 2 3	HYDROGEN DEUTERIUM TRITIUM
Indium (In)	115 113 106-112, 114, 116-121, 123	INDIUM INDIUM + ISOTOPES INDIUM + RADIOISOTOPES
Iodine (I)	127 117-126, 128-139	IODINE IODINE RADIOISOTOPES
Iridium (Ir)	193 191 182-190, 192, 194, 195, 197, 198	IRIDIUM IRIDIUM + ISOTOPES IRIDIUM + RADIOISOTOPES
Iron (Fe)	56 54, 57, 58 52, 53, 55, 59, 60, 61	IRON IRON ISOTOPES IRON RADIOISOTOPES
Krypton (Kr)	84	KRYPTON

Krypton (Kr)	78, 80, 82, 83, 84, 86 74-77, 79, 81, 85, 87-97	KRYPTON + ISOTOPES KRYPTON + RADIOISOTOPES
Lanthanum (La)	139 126-128, 130-138, 140-145	LANTHANUM LANTHANUM + RADIOISOTOPES
Lawrencium (Lw)	257	LAWRENCIUM
Lead (Pb)	208 204, 206, 207 196-203, 209-212, 214	LEAD LEAD + ISOTOPES LEAD + RADIOISOTOPES
Lithium (Li)	7 6 5, 8, 9	LITHIUM LITHIUM + ISOTOPES LITHIUM + RADIOISOTOPES
Lutetium (Lu)	175 167-174, 176-180	LUTETIUM LUTETIUM + RADIOISOTOPES
Magnesium (Mg)	24 25, 26 23, 27, 28	MAGNESIUM MAGNESIUM + ISOTOPES MAGNESIUM + RADIOISOTOPES
Manganese (Mn)	55 50-54, 56-58	MANGANESE MANGANESE + RADIOISOTOPES
Mendelevium (Md)	255, 256	MENDELEVIUM
Mercury (Hg)	202 196, 198-201, 204 189-195, 197, 203, 205, 206	MERCURY MERCURY ISOTOPES MERCURY ISOTOPES + RADIOISOTOPES
Molybdenum (Mo)	98 92, 94-97, 100 90, 91, 93, 99, 101, 102, 105	MOLYBDENUM MOLYBDENUM + ISOTOPES MOLYBDENUM + RADIOISOTOPES
Neodymium (Nd)	142 143, 145, 146, 148, 150 138-141, 144, 147, 149, 151	NEODYMIUM NEODYMIUM + ISOTOPES NEODYMIUM + RADIOISOTOPES
Neon (Ne)	20 21, 22 18, 19, 23, 24	NEON NEON + ISOTOPES NEON + RADIOISOTOPES
Neptunium (Np)	231-241	NEPTUNIUM
Nickel (Ni)	58 60, 61, 62, 64 56, 57, 59, 63, 65, 66	NICKEL NICKEL + ISOTOPES NICKEL + RADIOISOTOPES
Niobium (Nb) (syn: Columbium (Cb))	93 89-92, 94-101	NIOBIUM NIOBIUM + RADIOISOTOPES
Nitrogen (N)	14 15 12, 13, 16, 17	NITROGEN NITROGEN ISOTOPES NITROGEN ISOTOPES + RADIOISOTOPES
Nobelium (No)	253, 254, 255	NOBELIUM
Osmium (Os)	192 184, 186-190 181-183, 185, 191, 193-195	OSMIUM OSMIUM + ISOTOPES OSMIUM + RADIOISOTOPES
Oxygen (O)	16 17, 18 14, 15, 19, 20	OXYGEN OXYGEN ISOTOPES OXYGEN ISOTOPES + RADIOISOTOPES
Palladium (Pd)	106 102, 104, 105, 108, 110 98-101, 103, 107, 109, 111-115	PALLADIUM PALLADIUM + ISOTOPES PALLADIUM + RADIOISOTOPES
Phosphorus (P)	31 28-30, 32-34	PHOSPHORUS PHOSPHORUS RADIOISOTOPES

Platinum (Pt)	195 194, 196, 198 184, 186-193, 197, 199, 200	PLATINUM PLATINUM + ISOTOPES PLATINUM + RADIOISOTOPES
Plutonium (Pu)	232-246	PLUTONIUM
Polonium (Po)	192-218	POLONIUM
Potassium (K)	39 41 37, 38, 40, 42-45	POTASSIUM POTASSIUM ISOTOPES POTASSIUM ISOTOPES + RADIOISOTOPES
Praseodymium (Pr)	141 134-140, 142-148	PRASEODYMIUM PRASEODYMIUM + RADIOISOTOPES
Promethium (Pm)	141- 154	PROMETHIUM
Protactinium (Pa)	225-235, 237	PROTACTINIUM
Radium (Ra)	213, 219-230	RADIUM
Radon (Rn)	204, 206-212, 215-224	RADON
Rhenium (Re)	185 177-184, 186-191	RHENIUM RHENIUM + RADIOISOTOPES
Rhodium (Rh)	103 96-102, 104-110	RHODIUM RHODIUM + RADIOISOTOPES
Rubidium (Rb)	85 79-84, 86-95, 97	RUBIDIUM RUBIDIUM + RADIOISOTOPES
Ruthenium (Ru)	102 96, 98-102, 104 93-95, 97, 103, 105-108	RUTHENIUM RUTHENIUM + ISOTOPES RUTHENIUM + RADIOISOTOPES
Samarium (Sm)	152 144, 154 141-143, 145-151, 153, 155-157	SAMARIUM SAMARIUM + ISOTOPES SAMARIUM + RADIOISOTOPES
Scandium (Sc)	45 40-44, 46-50	SCANDIUM SCANDIUM + RADIOISOTOPES
Selenium (Se)	80 74, 76-78, 82 70-73, 75, 79, 81, 83-85, 87	SELENIUM SELENIUM + ISOTOPES SELENIUM + RADIOISOTOPES
Silicon (Si)	28 29, 30 26, 27, 31, 32	SILICON SILICON+ ISOTOPES SILICON + RADIOISOTOPES
Silver (Ag)	107 109 102-106, 108, 110-117	SILVER SILVER + ISOTOPES SILVER + RADIOISOTOPES
Sodium (Na)	23 20-22, 24, 25	SODIUM SODIUM ISOTOPES + RADIOISOTOPES
Strontium (Sr)	88 84, 86, 87 80, 81-83, 85, 89-95, 97	STRONTIUM STRONTIUM ISOTOPES STRONTIUM RADIOISOTOPES
Sulfur	32 33, 34, 36 30, 31, 35, 37, 38	SULFUR SULFUR ISOTOPES SULFUR RADIOISOTOPES
Tantalum (Ta)	181 180 172-179, 182-186	TANTALUM TANTALUM + ISOTOPES TANTALUM + RADIOISOTOPES
Technetium (Tc)	92-97, 99-105	TECHNETIUM
Tellurium (Te)	130 120, 122-126, 128, 130 114-119, 121, 127, 129, 131-135	TELLURIUM TELLURIUM + ISOTOPES TELLURIUM + RADIOISOTOPES

Terbium (Tb)	159	TERBIUM
	147-164	TERBIUM + RADIOISOTOPES
Thallium (Tl)	205	THALLIUM
	203	THALLIUM + ISOTOPES
	198-202, 204, 206-210	THALLIUM + RADIOISOTOPES
Thorium (Th)	223-235	THORIUM
Thulium (Tm)	169	THULIUM
	161-167, 169-176	THULIUM + RADIOISOTOPES
Tin (Sn)	120	TIN
	112, 114-120, 122, 124	TIN + ISOTOPES
	108-111, 113, 121, 123, 125-130, 132	TIN + RADIOISOTOPES
Titanium (Ti)	48	TITANIUM
	46, 47, 49, 50	TITANIUM + ISOTOPES
	43-45, 51	TITANIUM + RADIOISOTOPES
Tungsten (W) (syn: Wolfram)	184	TUNGSTEN
	180, 182, 183, 186	TUNGSTEN + ISOTOPES
	176-179, 181, 185, 187, 188	TUNGSTEN + RADIOISOTOPES
Uranium (U)	227-240	URANIUM
Vanadium (V)	51	VANADIUM
	45-50, 52-54	VANADIUM + RADIOISOTOPES
Xenon (Xe)	132	XENON
	124, 126, 128-131, 134, 136	XENON + ISOTOPES
	121-123, 125, 127, 133, 135, 137-145	XENON + RADIOISOTOPES
Ytterbium (Yb)	174	YTTERBIUM
	168, 170-173, 176	YTTERBIUM + ISOTOPES
	164-167, 169, 175, 177	YTTERBIUM + RADIOISOTOPES
Yttrium (Y)	89	YTTRIUM
	82-88, 90-97	YTTRIUM ISOTOPES + RADIOISOTOPES
Zinc (Zn)	64	ZINC
	66-68, 70	ZINC ISOTOPES
	60-63, 65, 69, 71, 72	ZINC ISOTOPES + RADIOISOTOPES
Zirconium (Zr)	90	ZIRCONIUM
	91, 92, 94, 96	ZIRCONIUM + ISOTOPES
	86-89, 93, 95, 97, 99	ZIRCONIUM + RADIOISOTOPES

付図 1

IAF 第 2 版一般用語篇の印刷例

<p>A</p> <p>066 (CEL)</p> <p>X CELL LINE</p> <p>N KIDNEY</p> <p>N HAMSTERS</p>	<p>Lissauer's paralysis (SYN)</p> <p>X PARESIS</p> <p>N CONVULSIONS</p> <p>N CEREBRAL CORTEX</p> <p>N ATROPHY</p> <p>N HEMIPLEGIA</p> <p>P SYNDROME</p>
<p>A6 (CEL)</p> <p>X CELL LINE</p> <p>N KIDNEY</p> <p>N XENOPUS</p> <p>* A virus</p> <p>see avian myeloblastosis virus</p>	<p>Lissauer's tract (NEU)</p> <p>* Spitzka's marginal tract</p> <p>* Lissauer's marginal zone</p> <p>* fasciculus dorsolateralis</p> <p>* Waldeyer's zonal layer</p> <p>X SPINAL CORD</p>
<p>A13 virus (VIR)</p> <p>X ENTEROVIRUS</p> <p>N BABOONS</p> <p>* AAF</p> <p>see agglutination activating factor</p>	<p>Lister Hill Biomedical (IAF)</p> <p>Communications Center</p> <p>X NLM</p> <p>X INFORMATION SERVICES</p> <p>X COMMUNICATION</p>
<p>aardvark (VET)</p> <p>X EDENTATA</p> <p>* AAV</p> <p>see adeno-associated viruses</p>	<p>Litter size (IAF)</p> <p>X ANIMALS, NEWBORN</p> <p>X FERTILITY</p>
<p>AB virus (VIR)</p> <p>X COXSACKIE VIRUSES</p>	<p>Little's disease (SYN)</p> <p>X CEREBRAL PALSY</p> <p>N PARALYSIS, SPASTIC</p> <p>P SYNDROME</p>
<p>Abadie's sign (SYN)</p> <p>X EYELID DISEASES</p> <p>X GOITER, EXOPHTHALMIC</p> <p>N SPASM</p> <p>P SYNDROME</p>	<p>Little's syndrome (SYN)</p> <p>X SCALP DERMATOSES</p> <p>X FOLLICULITIS</p> <p>N ALOPECIA</p> <p>P SYNDROME</p>
<p>Adberhalden reaction (MSH)</p> <p>X ENZYME TESTS</p>	<p>Littre's hernia (SYN)</p> <p>X HERNIA</p>
<p>Abderhalden-Fanconi syndrome (SYN)</p> <p>X PANCONI SYNDROME</p> <p>X CYSTINOSIS if applic</p> <p>P SYNDROME</p>	<p>X INTESINAL DISEASES</p> <p>X DIVERTICULOSIS</p> <p>P SYNDROME</p>
<p>Adberhalden-Kaufmann-Lignac (SYN)</p> <p>syndrome</p> <p>X FANCONI SYNDROME</p> <p>X CYSTINOSIS if applic</p> <p>P SYNDROME</p>	<p>Liver carcinoma, embryonal (TUM)</p> <p>X HEPATOMA</p> <p>Liver cell adenoma (TUM)</p> <p>X HEPATOMA</p> <p>Liver cell carcinoma (TUM)</p> <p>X HEPATOMA</p> <p>Liver cirrhosis, pigmentary (IAF)</p> <p>X LIVER CIRRHOSIS</p> <p>X HEMOCHROMATOSIS</p> <p>Liver embryoma (TUM)</p> <p>X HEPATOMA</p>